

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人 愛徳福祉会 大阪発達総合療育センター ゆうなぎ園		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 8日		2025年 2月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	2025年 1月 8日		2025年 1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月19日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	0才から言語聴覚士が専門性を生かし個別対応の支援を実施できる。	低年齢の方ではお家での過ごし方や関わり方などの相談を実施し、日常の体験をことばやコミュニケーションの発達につなげる提案を行うようにしている。 4、5歳児さんではお子さんに応じて就学にむけたコミュニケーションや学習の土台となるプログラムを提案している。	支援のねらいや振り返り以外にも発達や進路の見通しなどについても計画的に保護者とお話していけるよう保護者の方との支援の振り返り時間の工夫をしていきます。
2	保育士と言語聴覚士により専門性を生かした集団支援を実施し、保護者の方とお子様の成長を共有したり、相談にのることが出来ます。	小集団の中でのお子さんのことば・状況の理解や適応行動について担当職員間で打ち合わせ、振り返りを行い、全職員でも共有しよりよい対応に努めている。	保護者の方の仲間作りについてサポートできるよう支援の形態、交流の機会などを工夫していく。
3	季節の行事や勉強会、場合によって通常の支援への参観、ご参加などご家族やごきょうだいも園にお越し頂ける機会をつくっています。それを通してご家族の子育てのサポートを行っています。	利用児さんのごきょうだいは保護者と通園するきょうだいに 対し、知りたいと興味をもったり、さみしい気持ちになったり 様々な思いを抱くことがあります。そのことに保護者も 色々悩まれることもあります。ごきょうだいも含め楽しい経 験ができる場所であるように行事の内容、ごきょうだいの関 わりについて工夫しています。	コロナ感染流行以降、インフルエンザ流行期などは集団で集 まる行事においてご家族の参加人数を制限する場合があります。 感染対策は行いつつもご家族で楽しく参加できる場 を作るよう検討します。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	建物や設備が古い、建物の2階であるがエレベーターの設置ができない。		定期的な掃除や点検の徹底 2階への移乗については職員が支援させていただきます。
2	保護者の交流の場が、十分ではない。	グループ活動にご参加の方では交流の機会があるが、個別支援に参加の方の場合、保護者の交流や情報交換の機会を十分に作れていない。	少人数での勉強会、交流などの企画を検討していきます。
3			